

# 在京白聖會報

在京白聖会  
2017総会

## 白聖健児よ 世界に挑め! 5月13日(土) 東京ガーデンパレスで開催

第49回在京白聖会を、5月13日(土)、東京ガーデンパレスで開催します。幹事は昭和60年卒が務めます。

今回のテーマは「白聖健児よ 世界に挑め!」です。昭和60年卒で世界的に活躍する映画監督の大友啓史さんをメインスピーカーに、講演会や総会後の

### 第49回 在京白聖会総会・懇親会開催概要

日時: 5月13日(土)  
講演会・総会 15時00分～/懇親会 18時～  
受付開始 14時30分より  
場所: 東京ガーデンパレス  
(〒113-0034 文京区湯島1-7-5) ※昨年の会場と同じです。  
参加費: 一般 8,000円/学生・院生 1,000円  
(在京白聖会平成29年度年会費 2,000円は別途)  
● Webでの在京白聖会総会・懇親会へのお申し込みは  
<https://hakua2017.doorkeeper.jp/events/55988>

### 講演会 (講師とテーマのご紹介)

テーマ: 白聖健児よ 世界に挑め!

講師: 大友啓史 (おおともけいし/S60年卒)



慶應義塾大学法学部法律学科卒業。90年NHK入局、97年から2年間、ハリウッドで脚本や映像演出について学ぶ。帰国後、NHK連続テレビ小説「ちゅらさん」シリーズ、「ハゲタカ」、「白洲次郎」、大河ドラマ「龍馬伝」などの演出、映画「ハゲタカ」の監督を務める。2011年にNHKを退局、日本人として初めてワーナーブラザーズと複数本の監督契約を結ぶ。『るろうに剣心』、『プラチナデータ』などのヒット作を手がけ、14年には『るろうに剣心 京都大火編/伝説の最終編』を2作連続公開、14年度の実写公開邦画NO.1 ヒットを記録。国内外の賞を受賞し、世界的にその名を知らしめる。今春には盛岡市でもロケを敢行した『3月のライオン』2部作が公開。

講演会では、大友さんこれまでの活動をご紹介いただいた後、各界で活躍している昭と60年卒同期や上京したて

懇親会を通じて、これからさまざまな分野に羽ばたこうとしている若者と、各界で活躍している同窓生との交流の場にしたいと思います。

### 東京ガーデンパレス 交通アクセス



#### ●最寄駅

- ・ JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口 (東京駅寄り) より徒歩5分
- ・ 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」より徒歩5分
- ・ 東京メトロ丸の内線「御茶ノ水駅」より徒歩5分
- ・ 東京メトロ銀座線「末広町駅」より徒歩8分

盛岡の食文化を代表する「あの名物」もお目見えする予定です。この会に参加する皆さんが大いに語り合い、意見交換をすることで、「一高生メイン」を共有



昨年の懇親会風景

### 第42号

平成29年3月11日

発行

岩手県立盛岡第一高等学校在京同窓会

在京白聖会

事務局長 藤井則夫

(事務局)

〒143-0015 東京都大田区

大森西 2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: [hakua\\_office@pmp-jp.com](mailto:hakua_office@pmp-jp.com)

(<http://www.hakua.org/tokyo/>)

題字: 浅沼 一 道



昨年の懇親会風景

総会最後の懇親会では、大友さんの最新作『3月のライオン』に関連した映像を流し、初めて故郷・盛岡をロケ地に選んだ理由などを大友さんに解説していただきます。このほか会場には「女性」、「メディア」などジャンルごとにブースを設けて、世代を超えてじっくり語り合う場を作ります。

の大学生など若手同窓生にも登壇していただき、高校時代の思い出や故郷への思い、「一高生」としての矜持がその後の生き方に与えた影響などを語ってもらいます。

### お願い

同封の振替用紙にて平成29年度年会費2,000円のお振込をお願いします。お振込はなるべく、窓口ではなくATMをご利用下さい。



昨年の懇親会風景

し、岩手のため、日本のため、世界のために飛躍する活力を得る、浩然の気を養う会にしたいと思っております。

企画の段階から関わっている大友さんは、「幹事の一人として、大いに盛り上げたい。若い人たちともたくさん語り合うのが今から楽しみ」と話しています。若い世代については、会費の割引も導入予定です。これまでに総会に参加されていない方をお誘い合わせの上、多くの皆さんにお越しいただけることを、幹事一同、楽しみにしております。なお、出欠につきましては4月7日(金)までにご投函下さい。上段記載URLからのウェブ申し込みも可能です。

(S60年卒幹事団)

会座 聖歌 白文学 講座

# 宮沢賢治と校歌 ～その内容と背景～

本校校歌は明治42年ごろに作られたとされる。歌詞の作詞者は、生徒の伊藤九万一(M42卒)だった。この校歌の内容と時代背景について、「土人踊り」(現・猛者踊り)の起源なども書き残している宮沢賢治研究家の小川達雄さん(S22卒)が熱く語ってくれた。(構成・山田武秋)

## ●昭和22年卒の校歌への思い

今日は母校の校歌についてお話させていただきます。校歌を一番歌ったのが昭和22年卒業の私でもあったからです。私たちの中学生時代は学徒勤労動員で松井鉦山に駆り出され、その往復にはいつも校歌を歌っていました。4年生のときは川崎の工場へ行き、その行き帰りに校歌を歌っていました。さらに昭和20年6月、7月は平塚のプロペラ工場に動員されましたが、そのときも行き帰りは校歌です。おまけに戦い破れ罹災して盛岡に帰り、だれもいないプラウトホームに降り立ったとき、出迎えてくれたのも父兄の方々が歌ってくれた校歌でした。30人か40人くらい、いらしたでしょうか。このときほど校歌がありがたいと思っ



小川達雄さん(S22卒)

たことはありません。このように私たちの世代には校歌に思い出がいっぱい詰まっています。そこで先輩たちは校歌をどんな思いで創り、校歌をどう思っていたかということについて、先輩の皆様にお伝えしておきたいと思えます。

## ●金田一京助、小野清一郎ら 錚錚たる諸先輩が絶賛

校歌の成立について語っているのが一九七〇年に出版された『白聖校九十年史』の座談会です。金田一京助(M34卒)、小野清一郎(M41卒)、山口吉郎(青柳・M43卒)、阿部千一(M45卒)という、最も誇りとする先輩たちが一堂に会しました。この座談会の記録をまとめたのが遊座昭吾さんです。彼とは福岡高校で8年間同僚でした。金田一京助はこのとき85歳で、このあと数年でお亡くなりになりました。この座談会のなかで金田一はもちろん、明治41年卒の小野も校歌を知りませんでした。一方、明治43年卒の山口は校歌は「私の時か、その

一年前に「募集」したもので「随分練習した覚えがある」と言っています。校歌を作詞したのは明治42年卒の伊藤九万一です。から、校歌の成立はつまりこの明治42年ごろということになります。そして、「歌詞はどういうの」と金田一が聞き、編集委員の方が「世に謳われし浩然の 大気をここに鍾めたる…」と教えると金田一は「ふふん、はあ、はあ、一 Cheng、あ、いい！」と感激のあまり拍手しました。当時日本でもっとも売っていた国語辞典の編纂者が、校歌の歌詞に大感激したので

す。金田一のこの感動の様子を余すところなく記録してくれた遊座さんも偉かったです。小野清一郎もさすが「発想は孟子ですね。浩然の気だから」と絶賛しました。そして作詞が当時4年生の伊藤九万一だと聞くと、小野は「彼なら知っていた。秀才です」と言いました。伊藤は小野の1年後輩です。伊藤九万一のその後の経歴はよくわからないんですが、昭和15年、盛岡市立高校を創立する際に不足した資金5万円を寄付



講座風景 (2016.12.15)

したという岩手日報の記事を見つけました。当時の5万円は大金で、スケールの大きな人格者だったようです。

## ●伊藤九万一は孟子の「浩然の気」をどこで習ったか

山口青柳は、校歌は募集だったと言いましたが、この時同席していた高橋元昭校長は、記録では伊藤九万一が4年生のとき、学校に校歌がないのは淋しいからと創ったものを、若干修正して使っていると言っています。それで伊藤九万一は孟子をどこで覚えたのか調べたんですが、当時の新編漢文教科書を全て探しても「浩然の大気」が出てくる教科書は一つもありませんでした。伊藤九万一は教科書以外の読書から知識を得ていたんですね。この「浩然の気」は「孟子・巻第三・公孫丑章句上」に「敢問、夫子悪

乎長。曰、我知言。我善養吾浩然之氣……(敢て問う、夫子悪にか長ぜる、と。曰く、我言を知る。我善く吾が浩然の気を養う……)云々とできています。これは岩波文庫本に載っています。旧制中学4年といえば今の高校1年。伊藤九万一はその年齢です。孟子を読みこなしていたんですね。すごい人です。そして即座に伊藤九万一の校歌は孟子の「浩然の気」だと喝破した小野清一郎は天才を超える天才です。伊藤九万一の校歌は「浩然の大気」ですが、孟子には「浩然の気」とあります。そして小野は「浩然の気」と言っています。歌詞に引きずられることなく、孟子に即して言っておられる。小野も孟子をちゃんと読んでいた人なんです。つまり、「浩然の気」とは自然に生まれてくる心の正しい筋道で、それは自然に育つもの。無理やり筋目をつけようとするとかえって損なわれるから、自分に自信をもって、ごく自然に、人道に即して育てなきゃならんと言っているわけですね。それが「浩然の気」だと。そして、これこそが校歌の奥の院なのです。

## ●「軍艦マーチ」の曲を選んだ理由に薩摩琵琶の流行

伊藤九万一が創った歌詞はこのように錚錚たる先人が認めるところですが、どうして曲に「軍艦マーチ」が選ばれたか

(※7面に続く)



12月14日、「歌の祭り」



12月17日、白堊芸術祭最終日に集まった皆さん



「玉澤健児さんとThe wings」のライブ (12.17)

## 「白堊芸術祭」10周年に向けて

第9回目を迎えた「白堊芸術祭」は、昨年と同じ神田駿河台下・文房堂(ぶんぼうどう) 4階ギャラリーで盛大に開催されました。今年は節目の10周年。多くの皆様のご出展、企画参加、ご来場をお待ちしております。



イーハトーブ賞受賞記念「宮沢賢治と五行歌の朗読」で熱演する野口田鶴子さん (写真右・12.17)



12月15日、白堊歌会特別企画  
 小川達雄さんの文学講座「宮沢賢治と校歌」



▲福田 隆 (S49卒) 〈春の青木湖〉



▲三浦千波 (S50卒)  
 〈みちのく風景〉



▲毛利洋子 (S41卒)  
 〈霧のノイシュヴァンシュタイン城〉



▲西村和明 (S45卒)  
 〈金環の髪留〉



▲伊藤 総 (S55卒)  
 〈ペーパークラフト  
 自画像〉



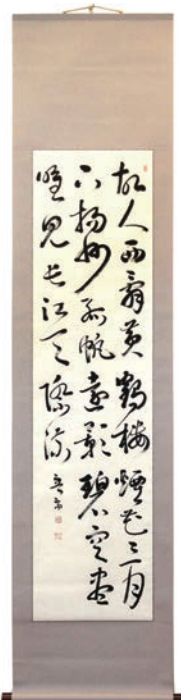
▲伊東明子 (S50卒) 〈ゆり〉



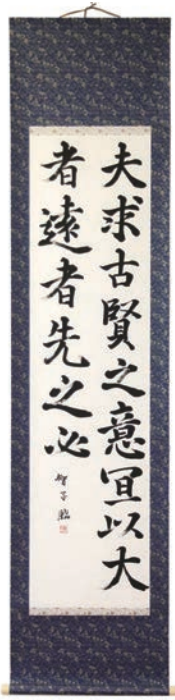
▲及川宣幸 (S42卒)  
 〈色即是空、空即是色 (東洋風に)〉

伊藤馨一 (S52卒) ▶  
 〈五百羅漢〉





▲佐藤法雄 (佐藤容齋・S50卒) <李白詩>



▲国分智子 (S32卒) <楽毅論>



▲及川喜一 (S20卒) <道は故郷に通じる>



▲浅沼榮一 (浅沼一道・S27卒) <夢(古文)>



▲菊池雅子 (S44卒) <君の居ない駅>



▲南館英孝 (S36卒) <秋色>



▲三浦千江美 (S53卒) <関戸本古今集>



▲武田夏実 (武田素虹・S53卒) <山川異域 風月同天>

▶晴山康夫 (S45卒) <静秋>



▲宮野谷 篤 (S53卒) <足摺岬>



▲坂上洋子 (綾華・S40卒) <回想>



▲吉田昌弘 (S38卒) <花器>



▲及川昭伍 (S25卒) <白釉面取花入>



▲戸田忠祐 (S20卒) <蘇る硫黄山Ⅱ>



▲田部井恭子 (S34卒) <野兎>



▲八重樫誠司 (S53卒) <DarQ Energy>



▲柏木宣郎 (S36卒) <『陽光を受けて』トルコ・ダッチャにて>



▲小原隆史 (S41卒) 〈ふる里の水芭蕉〉



▲藤原則子 (S51卒) 〈がくあじさい〉



▲坂本 務 (S44卒) 〈想 A〉



▲柳内久俊 (S43卒)  
〈カリフォルニア・ドリーミング〉



▲村野井徹夫 (S35卒)  
〈水中サイクリング36景〉



▲橋本時浩 (S53卒) 〈大 植〉



▲辻田よね子 (辻 やのか・S55卒)  
〈コラボレーション〉



▲水原 滋 (S50卒)  
〈HAKUART2016〉



▲千葉祐治 (S41卒)  
〈(鎌倉彫) 小 品〉



藤澤 貢 (S61卒) ▶  
〈写日記 - 2016 -〉



▲戸澤 聡 (S40卒)  
〈ナイロビの少女〉



▲森 豊彦 (S40卒)  
〈2016(豪栄道優勝)〉



▲馬場 信 (S41卒) 〈私が見た東日本大震災この五年〉(左ブロック)と白聖歌会作品展示(右ブロック)  
白聖歌会作品展示: 小川達雄(八十若・S22卒)、稲垣裕雄(伊奈 裕・S38卒)、馬場 信 (S41卒)、山田武秋 (S42卒)、  
村谷尚 (S54卒)、 青山すみれ(白聖歌会会員)、鈴木早苗(白聖歌会会員)、朗読: 野口田鶴子 (S40卒)



▲鈴木章子 (S39卒)  
〈歌Ⅱ〉



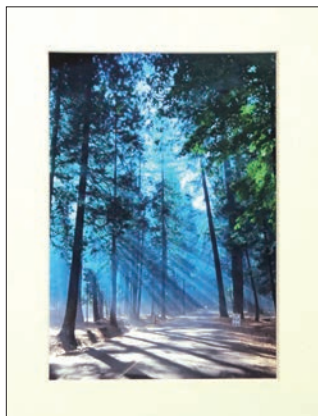
▲小山卓也 (S32卒)  
〈雪煙舞い上がる裏岩手〉



▲古座野郁子 (S32卒)  
〈風の八幡平〉



▲紀章 (S56卒) 〈花巻のツバサ〉



▲畠順一郎 (S41卒)  
〈アメリカの林〉



▲及川謙 (S61卒)  
〈オホーツクの挽歌〉



▲坂本美枝子 (S45卒)  
〈クリスマス飾り〉



▲玉澤健児 (S43卒)  
〈ポルトガル沖のクロマグロ〉



▲戸田純 (S48卒)  
〈オリンピックロゴ  
応募案と年賀状〉



▲村谷尚 (S54卒)  
〈年増女の墮天使〉



▲吉田春雄 (S38卒)  
〈初午祭り〉



▲岸田百合子 (S32卒)  
〈カメレオン〉



佐々木美枝子▶  
(S43卒)  
〈積日〉



▲佐々木宏文 (S58卒) 〈秋模様〉



▲伊藤公雄 (S34卒) 〈静物〉



▲田村仁 (S50卒) 〈michi〉

(※2面から続く)

というところ、それもちゃんとした理由があったのです。曲は宮古出身で伊藤と同期の佐香貞次郎が、宮古港に船が入りるときに流れる勇壮な「軍艦マーチ」がいいと言い、それを学校側も認めたと言うことになっていきますが、その背景には、当時の薩摩琵琶の大流行がありました。薩摩琵琶は明治14年5月、薩摩の島津忠義が品川の別邸に明治天皇のご臨幸を仰ぎ、「敦盛」などをお聞かせして以来、大和魂を体現したものであるとして流行しはじめ、日本各地で演奏会が開かれるようになったのです。宮沢賢治が盛岡に入学した明治42年11月、盛岡の内丸座で開かれた薩摩琵琶大会は、開演1時間前には立錐の余地がないほど老客男女の観客が詰めかけたという記事が岩手日報に載っています。盛岡中学でもこの月、「各自の品性を高尚にし、青年の元気を

岩手県立盛岡第一高等学校 校歌  
 作詞 伊藤久万一  
 作曲 安村三郎  
 編曲 宮川弘一  
 採譜 神啓子

1 山にうたえわかれ ころせんのかい 山をこに あつめたる  
 2 めいじじいさん はるなほば いしずかたたく たまたまの  
 3 ちゅうじつじょうの はたはたか ぶんぶのうらに わたるひの  
 4 ふるえやちゅうの けんたんじ かいりくしほう いくまんり

しんがー しせんは かーを うけて  
 はしーのー はまはれ はーに つるに  
 ねんしゅく すーすーのー いーつ せんだい  
 そごふん とーのー かーつ せんたい

けつねはしー らぬはー あーしー じやう  
 まにひびくー こゝろをー らぬくー けつね  
 けんじのすー ねたのー だーい せんち  
 せこまいしー らぬのー だーい せんち

母校校歌は口伝で伝えられていました。この楽譜は1996(平成8年)年、在京白聖会幹事を担当したS39年卒・神啓子さんが採譜したものです。

のあたり  
 の事情を  
 物語るも  
 のです。  
 熊谷の  
 蓮生坊が  
 たてし碑  
 の旅はる  
 とく涙  
 あふれぬ  
 大正5  
 年9月、

鼓舞」する目的で和歌、漢詩、新体詩、英詩、琵琶歌などを朗吟する杜陵朗吟会が設立されました。この会に入るには毎月5銭の会費が必要でしたが、校長以下教職員も出席し月二回、全校的な行事として開かれるこの会は生徒に大人気で、宮沢賢治(下3卒)は中学3年になるまでこの杜陵朗吟会に入会できませんでした。風をむき岩手のやまにわれらいま校歌をうたふ先生もつたふ宮沢賢治は盛岡2年の秋に岩手山登山を行い、寒風の中、山頂でみんなと一緒にさかんに校歌を歌っています。杜陵朗吟会もまた、漢詩や薩摩琵琶の朗吟のあと、最後は全員で校歌を合唱して終えるのが決まりでした。『新校本全集・年譜篇』の賢治盛岡中学3年に見える「一二月 寄宿舎で薩摩琵琶が流行し、夜食堂で喰らあう。」という記載は、こ

宮沢賢治が関教授の指導で秩父地方に地質調査旅行をしたとき、熊谷の熊谷寺を詣で平敦盛の石碑の前で一人涙していますが、これも盛岡時代に薩摩琵琶「敦盛」に親しんでいたからだと考えられます。

●宮沢賢治も親しんだ校歌と薩摩琵琶

このように、校歌は薩摩琵琶の会などをつくり、詩吟や薩摩琵琶などをピンピンやっておった盛岡中学の雰囲気の中で作られました。宮沢賢治も校歌や薩摩琵琶においおい泣きながら夢中になった一人です。そしてこの杜陵朗吟会の活動を通して素直な心や憐れみの心をみんな学んでいたのです。校歌を発表するとき、時の校長の江崎誠は中の字をつけた帽子を被って一人で何回も歌い、それにだんだん生徒も唱和していつ、最後は全生徒が校歌を歌いながら校庭で踊り狂ったといわれています。校歌の「軍艦マーチ」が、ちょうど当時流行った薩摩琵琶の朗吟と気分が合致するところがあつたわけですね。

今日は校歌の奥の院である思想の中心部分と、周辺部分である当時の流行についてお聞きいただきました。このことは、覚えておいていただければと思います。お聴き下さり、どうもありがとうございます。

芸術鑑賞倶楽部活動報告

松本竣介を鑑賞する旅  
 H28年11月26日(土)

大川美術館「松本竣介を鑑賞する旅」では、大先輩松本竣介の絵画世界を学芸員の解説を聞きながら堪能。贅沢なひとときでした。彦部家住宅見学では、彦部家当主が、自ら解説して下さい、感激しました。



彦部家住宅の前で：撮影・吉田春雄さん(S38卒)

ゴルフクラブ活動報告

第14回ゴルフ大会の結果  
 H28年10月21日(金)

平成28年10月21日(金)、ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎開催で開催された2016在京白聖会ゴルフ大会。団体優勝は混成Aチーム(S20卒・鈴木昭久、S36卒・間瀬、S36卒・金山、S37卒・青山・敬称略)、個人の部はS36卒・金山文彦さん(S36卒)が

優勝しました。今回の担当幹事はS40卒(代表・細越博資さん)でした。どうもありがとうございました。

今年の幹事はS36卒・金山文彦さん(正)、間瀬隆男さん(副)。次回は次号でご案内します。楽しみにお待ちください。



(写真上) 第14回大会参加者、(写真左下) 団体優勝・混成Aチーム、(写真右下) 個人戦優勝の金山文彦さん

白聖歌会活動報告

芸術祭で展示・朗読・講座  
 ウェブ歌会も開設

白聖歌会は、白聖芸術祭での作品展示、野口田鶴子さん(S40卒)の「宮沢賢治と五行歌の朗読」のほか、昨年は小川達雄さん(S22卒)の文学講座「本紙記事参照」を開催しました。また、ウェブ歌会「白聖歌会の部屋」を通して交流を深めています。(http://9324.teacup.com/sogyouka/bbs)。作品ジャンルを問わず、どなたでも投稿できます。どうぞご来場下さい。

# 銀座でランチの白聖女子会へようこそ

## 「白聖レディス会」参加者募集

### 第13回在京白聖レディス会 6月24日(土)開催

第13回目「在京白聖レディス会」を次の通り開催します。多くの白聖レディスのご参加をお待ちしています。

#### 〈開催概要〉

日時：平成29年6月24日(土)  
受付 12:00より  
開始 12:30～15:00

場所：Sun-mi(サン・ミ)高松本店(昨年と同じ場所です)

中央区銀座6-13-9  
電話03-5556813300  
地下鉄銀座駅 徒歩2分(C2出口)

・地下鉄銀座駅・東銀座駅から徒歩5分  
会費：5千円  
ゲスト：未定

※詳細は追ってホームページ等でご案内いたします。  
戸来ソウ子 (S40年卒)

# 盛岡での「歌の祭り」におどつてくなんせ!

## 「歌の祭り」参加者募集

### ①6月25日(日)—— 盛岡で初の「歌の祭り」



「第16回歌の祭り」は24名が参加  
2017年2月5日(日)：「ブルーティ」にて

「歌の祭り」は本年2月で16回の開催を数えました。本年6月の「歌の祭り」は盛岡と東京の交流、親睦を趣旨として、盛岡で臨時開催する運びとなりました。盛岡と東京から演奏出演者(各10名程度)を募り、併せて出演者を応援する方にも来ていただき、昼食をいただきますが、①出演者による応援者(身内、友人など)の紹介を約1時間、②みんなで歌う歌唱(日本の歌を約1時間、③出演者の歌唱(2曲以内)を約3時間、合計約5時間を予定しています。振るってご参加下さい。なお、予定の変更の際はご容赦下さい。

#### 〈開催概要〉

日時：平成29年6月25日(日)

# 健康相談や喜寿のお祝いで交流深める

## クラブ活動報告

### 在京白聖メデイカルクラブ 3月4日(土)総会開催

在京白聖メデイカルクラブは、在京の白聖同窓生で医療関係の業務に従事している皆様の親睦を深め、在京白聖会



柴孝也先生の喜寿を祝う会に参加の皆さん (2016.11.5)



校歌斉唱 (2016.11.5)

全体にも奉仕していくことを目的として活動しております。平成28年5月14日の第49回総会において例年通り健康相談コーナーを設けて、会員の皆様から健康相談を承りました。健康診断の結果を持参されて

〒245-10062

横浜市戸塚区汲沢5-30-5  
電話045-8643215

## 「歌の祭り」参加者募集

### ②第17回歌の祭り—— 7月30日(日)渋谷で開催

なお、恒例の歌の祭りを下記要領で開催いたします。参加者全員で手作りの歌唱集を歌うコーナーも用意。初めての方もお気軽に参加下さい。

#### 〈開催概要〉

日時：平成29年7月30日(日)  
11時30分(受付)～17時30分  
場所：「ブルーティ」渋谷区笹塚1-61-8 ホテルブリーゲンビルA新宿1階に併設

電話03-3375-1474  
会費：5千円

※会場や、楽器演奏での歌唱は一人2曲以内というのは、従前通り。申し込み等は上の「臨時開催」の大内まで。詳細は申込者に別途ご案内します。

12時集合～17時頃まで  
場所：アンサンブル店(定員50名)盛岡市大通り2-7-20  
上田ビル5階  
電話019-6523323  
会費：5千円  
※出演者には楽譜送付先など詳細を別途ご案内します。定員50名になり次第申し込みを締め切らせていただきます。  
連絡先：大内秀之(S35卒)白聖有志で「歌の祭り」代表幹事  
ci:v04580@rio.odn.ne.jp